



Rotary International District 2650 Nara Japan

奈良大宮ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■創立：昭和54年1月23日 ■例会：毎週火曜日 17:30
 ■事務所：奈良市大宮町6丁目2-1 南都銀行大宮支店内 電話 0742-33-8583
 ■例会場：奈良市高畑町1096番地 奈良ホテル本館 電話 0742-26-3300(代)
 ■会長：井上正行 ■副会長：北神徳明 幹事：増井義久



卓話 一般財団法人南都経済センター 理事長 粕井 憲 様

会長報告

●中奥会員のお父様が3月28日にお亡くなりになられたそうですが、クラブに知らせがありませんでしたので分りませんでした。申し訳なく思っております。今週土曜日に、私と幹事でお悔みに行く予定です。

●4月1日に地区大会が京都国際会館で行われました。それに先立ち、会長幹事地区委員長会議が9:00~始まり、私と増井幹事が出席しました。当クラブは登録人数が44名と県内では大和高田RCに次ぎ奈良RCと同人数で、出席率では一番良かったのではないかと考えております。有難うございました。さて、会議は、RI会長代理、2620地区静岡RCパストガバナー牧田静二氏を迎え、盛大に行われました。特別講演の千玄室様始め、記念講演は建築家の安藤忠雄様、テーマは「自ら可能性を探さなければ日本に未来はない」と題して、一時間余りお話を聴かせて頂きました。今年は時間の都合上、ガバナー賞の表彰などは代表クラブのみで終わり、後日地区から表彰状が届くということです。当クラブもロータリー財団部門賞（これは大宮地区防災訓練で頂きました）、もう一つのガバナー賞は米山奨学部門でございました。また、長寿賞の表彰もあり、当クラブから松岡嘉平治さんが表彰されております。そして最後にガバナーノミネー候補の紹介があり、当クラブの北河原公敬会員が朝からと昼からと二回スクリーンに大きく映し出されました。ガバナーから経歴紹介その他の紹介があり、それを見て感動致しました。また、地区大会のお礼状がガバナーから届いておりますが、時間の都合上お見せするだけにしたいと思います。

<地区大会の様子>



発行日/2012年 4月10日
2011-2012/36

Vol.33
No. 1595

HP: <http://naraomiya-rc.jp>
E-mail: info@naraomiya-rc.jp

2011~12年度 当クラブテーマ
「クラブの未来のために
リーダーを育成しよう」



国際ロータリー第2650地区
ガバナー 今西 信裕



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

四つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

例会プログラム

第37回 4月10日
通算1595回

1. 開会の点鐘 17時30分
2. ソング
「四つのテスト」
3. お客様の紹介
4. 会務報告
5. 卓話
奈良県観光局
ならの魅力創造課
課長 村上 伸彦 様
「記紀 万葉プロジェクト
について」
6. 閉会の点鐘 18時30分

例会状況報告

第36回 4月3日
通算1594回

● 会員数 69名
 ● 出席免除者数 23名
 ● 出席者数 46名
 ● 出席率 90.00%

第34回 3月13日
通算1592回の修正

● 会員数 70名
 ● 出席免除者数 23名
 ● 出席者数 63名
 (内補填者数 6名)
 ● 出席率 98.44%

- 皆様も状差しに入っていたと思いますが、今月のガバナー月信に、2014-2015年ガバナー決定のお知らせということで北河原さんの記事が裏に載っておりますので、ご覧いただければと思います。
- 奈良ロータリークラブ 会長 前田正一郎様、創立60周年記念実行委員会 委員長 城田全康様よりお礼状が届いております。
- 第二回鷗尾の会会長幹事会（新・旧合同）開催のご案内が来ております。来月5月17日（土）です。これは私の年度と次年度・楠原さんの年度とご一緒に出席させていただきたいと思っております。
- 同じく、6月2日には県下の会長幹事会が新・旧合同で行われます。これもまた次年度と一緒に出席させていただきたいと思っております。
- 鷗尾の会親睦ゴルフ大会会計報告、年度末家族例会ご案内、親睦ゴルフコンペなどについては各委員会から報告して頂きます。
- 4月24日の例会で、当クラブ箸尾さんによる卓話をお願いしております。議題は「当クラブからガバナーを輩出するクラブの心構えについて」ということでお話いただきますので、皆さん、欠席しないように、宜しくお願い致します。

委員会報告

親睦活動委員会・堀内副委員長

- 4月15日の花見家族親睦例会の出欠の確認をさせて頂いておりますが、予約等の関係がありますので、都合が悪くなったという方はなるべくお早めにご連絡頂きますようお願いいたします。現在、たくさんの方に御出席のご連絡を頂いており、当日は90名ご出席頂けるということです。皆様宜しくお願い致します。
- 親睦ゴルフの日程が決まりましたので、お知らせいたします。最終はいつも一泊で行っております親睦ゴルフですが、6月7日（木）8日（金）で決まりました。場所は未定ですが、伊勢方面で予定しております。

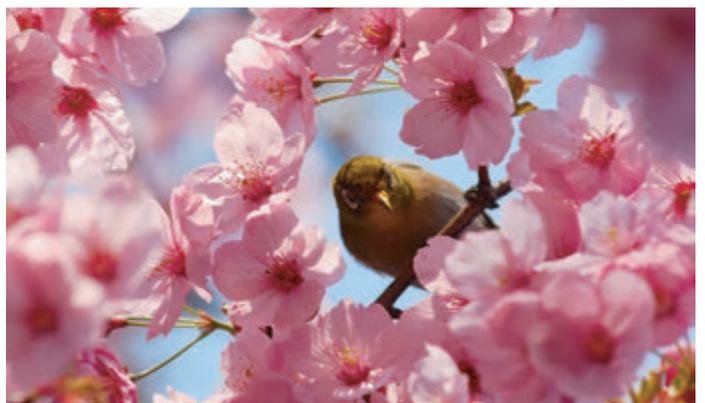
社会奉仕委員会・多田実委員長

春の交通安全県民決起集会ですが、再度ご案内申し上げます。今週の金曜日、4月6日13:30からなら100年会館中ホールで行います。できるだけ多くのロータリアンの参加を期待致します。MU扱いになりますので、宜しくお願い致します。

鷗尾の会親睦ゴルフ大会実行委員会・高野運営委員長

3月14日の鷗尾の会親睦ゴルフ大会には多数の方のご参加、ご協力を頂き、有難うございました。会計報告をさせていただきます。

まず収入の方ですが、クラブ登録料と参加者の88名の登録料を合わせまして、1,090,000円となっております。そこから懇親会、参加賞、賞品代、写真代、その他の費用などを引きますと109,160円が余りました。それと当日ショートホールでチャリティーお願いしたのですが、こちらの方で、82名の方に1,000円ずつご協力頂きまして、82,000円頂くことができました。これに先ほどの残金を合わせまして、191,160円を2650地区東日本大震災復興支援寄付金に寄付させて頂きました。この会計報告を、地区からの礼状を添え、各クラブに報告したいと思います。



卓話 一般財団法人南都経済センター 理事長 粕井 憲 様

「日本経済の動向」

今日は、今後の日本経済についてということで、お話させていただきます。

経済の大きな動きとしては、昨年3月11日に発生した東日本大震災に加え、歴史的な円高や欧州の債務問題もあり、日本はもちろん海外景気も大きな打撃を受けました。こうした不測の事態が生じる中で、旧来の社会経済が抱える問題が一挙に露呈されました。具体的には、日本にとっての一番の課題は震災からの復旧・復興ですが、東北地方は農業・水産業において食糧の大きなマーケットを占めており、また一方で、自動車産業を中心に、東北地方の製造企業が稼動しなければ、日本の自動車の生産ができないという、非常に重要な地域でもあります。そういう意味で、今後、東北地方の将来図が明確にされ、それに向かって復興していく、あるいは民間投資を呼び込んで成長の持続性を求めていく、こういう非常に大事な課題を持ち合わせて、復興に向けて動いているという状況です。しかしながら、必ずしも上手くいっていません。特に、復興においては、ここ数十年間の不況の中で、建設業界が徹底したリストラをしたために、復興に携わる技術者が不足しており、素人軍団が採用されて復興にあたっている現状です。このような労働需給という問題も起こっておりますし、何とんでも放射能汚染ということで、5年や10年ではなく、おそらく50年・100年の計画の中で、どのように復興していくのかという、非常に大きな対策が求められることになります。また、震災からの復興に加え、長年のデフレ経済からどうして脱却していくのか、あるいは、産業構造の特異性、すなわち急激な少子高齢化で生産年齢人口が大きく減っていく、こうした構造的な問題を持ち合わせているということです。

デフレで国民も企業も困っていますが、一番困っているのは国です。なぜなら、税収が入らないからです。日本の税収のピークは60兆円を若干超えたくらいですが、今は40兆円です。そういう状況の中で赤字国債をどんどん発行している状況です。いわゆるデフレというのは、本来の供給能力に対して需要が追いついていないということですが、その差が日本のGDPに対する4%で、20兆円弱あるだろうといわれています。その需要を占めているのが、個人消費、民間投資、政府支出、純輸出の4つです。個人の消費については、デフレの中で賃金も上がらない、カットされるという労働環境の悪い状況の中で膨らんでいきませんし、民間企業も、低金利で金余り状況の中でも設備投資をしません。そして貯蓄が、銀行を通じて国債の購入という形で、日本の長期金利がこういう状況の中でも安定してるという不思議な現象につながっています。純輸出もマイナスに陥りましたので、今後どのように動いていくのか興味関心があるところですが、今この需給ギャップを何が埋めているかということ、いわゆる財政、公共投資で、ピークでは40兆円でしたが、今はもう20兆円いかないくらいです。GDPの約10%が日本の水準だといわれていますが、いま現在4%くらいまで下がってきています。

では、デフレ現象というのが具体的にどう現れているのかということ、株価の推移は、平成元年には38,915円でしたが、今日現在、10,040円で、やっと1万円を回復したところです。上場株式の時価総額が600兆円といわれていたのが、今は300兆円を若干切るくらいです。名目GDPは、今の水準は平成5年の水準と変わりません。現在の賃金水準は、所定内賃金は平成元年、年間賃金は平成3年の水準にとどまっており、賃金が全く上がっていないということです。したがって需要も低レベルでしか推移していないということです。雇用関連では、失業率がだいたい4.5%から4.6%で、336万人の失業者がおりますが、その大半が若年者です。非正規雇用は35%を占めています。リーマンショック以後の大打撃を乗り切るために、国から雇用調整給付金が交付されていますが、実はこの需給対象者が469万人いるといわれています。これを入れると日本の失業率は13%になります。アメリカは9%台といわれていますが、日本もこういう大きな問題を抱えております。そのほか、中小企業の製造業者は2008年から2009年にかけて約4万社減っています。これは円高や空洞化という大きな流れの中で減っているということでしょうし、製造業の従業員は約60万人減少しており、非常に危機的な状況が起こっています。

デフレで一番困るのは国だということを申し上げましたが、巨額の財政赤字ということで、2012年3月末で1024兆円となっています。その中身が分かりませんので、2011年9月の数字で見ますと、894兆円あり、このうち地方が200兆円で国が693兆円です。問題は、現在、消費税を上げるという形で赤字体質を何とかするという

ことをいわれていますが、これまで国債を発行するときは、これは建設国債だから発行しても何も問題はないと言っていたのに、今はこのことを一切言いません。実は、建設国債が693兆円のうち251兆円あります。純粹の赤字国債というのは391兆円しかありません。建設国債については、建設国債に見合う資産が国の背景としてあるという、利益を上げる資産が、国民経済を發展させるために貢献している資産が背景にあるということで、単に赤字の額が大きいだけだといわれていました。もうひとつ国の資産で埋蔵金というのがありますが、694兆円、大方700兆円あるといわれています。いろいろと国債について発表されますが、そういうことだということでご理解いただければ、もっと国債に対しては変わった視点で物事を考えることができるのかなと思っています。

もう一つ構造的な問題でいうと、日本の産業構造の特異性ということがあります。日本の産業の所得の拡大が、いわゆる輸送機械・自動車、産業機械、電気、鉄鋼の4つの業種にあまりにも依存度が強く、2001年から2007年の全産業の計上益が約25兆円で、そのうちこの4つの産業で9兆円、約36%を占めており、非常に弱い産業構造になっていることが、現在、大きな問題としてクローズアップされています。特に電気業界や造船業界などは厳しい状況です。日本は資源のない国なので、海外から原料を調達して、それを製品にして、輸出することで、日本の産業は成り立っているということを、いわれてきました。しかし考えて見ると、輸出というのは、GDPに占めるウェイトが13.4%で、輸入は11.8%です。世界的なグローバル化の中で、日本の産業構造としてこれは問題ではないかと思えます。

3つ目は、税金が高いとか、厳しい雇用問題であるとか、円高であるといった、ビジネスインフラの問題です。

4つ目は、世界的なグローバルな産業構造の大きな変化の流れの中で、日本はついていけないことです。その現象的な問題として郵政の民営化というのもありましたが、成長戦略にも繋がってきますが、もっと新しい産業の育成や規制緩和という方向で進んでいかないとなりません。規制改革といわれているものの中で、文部科学省と厚生労働省による保育園と幼稚園の勢力争いの流れの中で、規制が一部緩和されて、家庭内保育が認められました。企業が保育事業を行うことが可能になりましたので、第一生命が一举に全国に所有するビルに幼稚園や保育園を作ったり、電鉄会社が堰を切ったように急行停車駅に幼稚園や保育園を作るといったことが、日経新聞に載っていました。こども手当というのがありましたが、あれは手当を渡してしまえば、おそらく70%強は銀行預金に残ってしまい、全然経済に反映されません。このような保育園という形になると設備投資のお金が動きますし、保母さんの採用という形で雇用が生まれてきますので、このようなお金の使い方というのが規制緩和ということになってくるのかなと思っています。あるいは農業がTPPの問題で脚光を浴びていますが、平成9年に農地法が一部緩和されたことにより法人が農地を買いやすくなりました。今や大手のスーパーや食品メーカーは、自社農場を委託生産という形でされていて、大きく農業の流れが変わってきています。大手スーパーから「こういう作物を作ってくれば、いくらで買い取ります」という話が、農協を通さずに、ダイレクトで生産組合にあるという流れが起こってきています。

次に、急激な少子高齢化ですが、平成10年から人口が減少に転じ、奈良県も全国と同じペースで減少しています。日本のこの人口減少、少子高齢化には、典型的な構造問題があります。団塊世代がこれから年金をもらうこととなりますが、それが日本の財政に徹底的な影響を及ぼしており、あと5年もすると後期高齢者となり、ものすごく医療費がかかる世代になります。これが団子状態であるわけです。また、この団塊ジュニア世代がありますが、同様に人口構造という点では大きな問題です。生産活動、消費、納税の主たる担い手が減少してきますので、衣食住といった国内の基礎的な需要が確実に減ってきます。食品業界も国内のマーケットはもうどうにもならないということで、次々と海外へ出て行っています。それが国内市場の縮小要因となり、需給のアンバランスという原因を作っています。この少子高齢化を踏まえて、女性の社会進出であったり、お年寄りもお元気なうちはもっと現場でがんばっていただきたい、というのが今の動きだろうと思っています。

日本の経済を見るときには、世界の大きな動きも見ていく必要があります。リーマンショック前と後ということ考えると、リーマンショック前は新興国、特にアジアが世界経済の中心でした。先進国の実質経済成長率は1%から2%ですが、アジアやアフリカの成長率は案外認識されていません。今まで世界経済から取り残されてきたサハラ砂漠から南の地域において、地下資源がどんどん見つかり、中国やインドが徹底的な投資を行っています。日本は、全くそっちを向いていません。アジアが、こういう形で世界経済を引っ張ってきました。リーマンショック後は、100年に一度の世界金融恐慌ですが、これ乗り越えるために、先進国が金融緩和や財政支出とい

う大経済政策をとり、これが過剰流動性という形で世界を求めて流れていき、このお金の流れが中東の民主化の大きな動きに繋がってきました。アメリカは現在予想だにできなかったほど景気がいいといわれていますが、実際はそんなことはないと思います。失業率は、9.1%（1400万人、今は8.3%くらいに改善されたといわれていますが、）で、それに加えて住宅問題という大きな問題を抱えています。また、景気対策としての減税政策の期限がきますし、これから大統領選もあります。それが今後どういう方向に流れていくかによって、アメリカ経済も大きく変わっていく要素をはらんでいます。新興国は、ヨーロッパに対する輸出でもっていました。特に中国はそうですが、その中国において、生産は減速し、不動産価格は下落し、インフラ投資も列車の事故等もあり、大きくブレーキがかかってきている状況です。欧州は、ギリシャの問題やイタリアの国債の問題もありますが、一番問題なのは、各金融機関が国債の評価損等で自己資本比率が痛んだということで、資産である融資金や海外債券への投資というのを一挙に引き上げる危険性があり、これをやられるとアジアは壊滅的な打撃を受けることになります。そういう大きな流れの中で日本経済をみていくと、最も可能性の高いシナリオは、復興という形で経済の底を押し上げるというプラス要因もありますが、外需は依然として弱いということだろうと思います。日本として最悪のシナリオは、資源価格の高騰による輸入インフレです。賃金上昇にともなう物価上昇ということで悪性インフレですが、もうその兆候は出ています。3月に原油価格が上昇しましたが、原油価格が上昇するということが世界中の景気に影響してきます。リスクの高い問題をこういう形で日本は持っていることを認識しておく必要があります。日本は1ドル81円の水準で、株価は日経平均が1万円を回復しました。米国経済は実際の個人消費を見ていくとまだまだ安心できません。欧州はギリシャ問題はまだまだ完全に解決に至っていません。日本は円安が進み、株価も回復していますが、マーケット環境を考えると、ボトムという感じはしませんし、まだまだ予断を許さない状況です。そこで一番大事なのは、日本は、アジアに対して、特に中国やインドを中心に、輸出という形で関係が強く、特に関西はウェイトが高いです。そういう中でヨーロッパが倒れてアジアがその影響を受ければ、まさしく日本も共倒れとなります。ヨーロッパとアジアと日本、この3つのリンケージで考えていくというのが大事ではないかと思います。

奈良県の景気動向については、正直に言って、じりじりと全国における奈良県のウェイトが下がってきており、全国ペースよりも下がってきています。産業基盤が弱いので、もっと産業を誘致して税金を納めてもらわないと厳しいです。県民所得に占める企業所得の割合は全国で46番目という状況です。観光は、不足している内需を喚起することになります。決して、観光というのは神社や仏閣が全てではなく、農業からあらゆる産業まで対象となります。いかに行政を中心に産業立地、観光活性化という形のインフラを着実に整備していくかということであり、その中で作り上げていくしかありません。

本日は有難うございました。

<講師略歴>

昭和44年3月	立命館大学経済学部 卒業
昭和44年4月	南都銀行 入行
平成11年6月	取締役（管理部長委嘱）
平成14年6月	取締役（本店営業部長委嘱）
平成15年6月	常務取締役（大阪支店長委嘱）
平成16年6月	常務取締役
平成19年6月	常務取締役大阪地区本部長
平成20年6月	専務取締役大阪地区本部長
平成23年6月	南都経済センター理事長
	現在に至る

- (財)南都経済センター 理事長 鮎井 憲 様 (多額のニコニコを頂きました。ありがとうございました)
- 井上正行 君 地区大会参加登録44名と奈良県では大和高田クラブについて奈良クラブと同数でした多数の出席に感謝をします。又ガバナー特別賞もいただきました 会員の皆様のお蔭です
- 増井義久 君 地区大会多くの参加ありがとうございました
- 有井邦夫 君 南都経済センター鮎井理事長の卓話楽しく聴かせて戴きます。地区大会出席させて戴きました。
- 小西敏文 君 鮎井理事長 本日は卓話 ありがとうございます
- 松岡弘樹 君 鮎井理事長 本日の卓話 宜しく願いいたします
- 楠原忠夫 君 麴谷さん おすしおいしかったです。お世話になりました。また 森下さん ごちそうになりました。ありがとうございました。
- 橋本和典 君 地区大会お疲れ様でした。例年と違った思いで参加しました。とても他人事(ひとごと)には思えませんでした。しっかり真面目に最後まで参加しました。明日(さ来年)は我が身ですから。森下さんお世話になり有難うございました。
- 佐川 肇 君 またまた例会連続欠席のおわびに。ポリオチャレンジ寄付をよろしく願います
- 武藤廣茂 君 4月より東京と大阪に各1園、保育園を開園しました。元気な子供達が大勢入園します 大変たのしみです。
- 堀内眞治 君 結婚記念日の記念品ありがとうございます。毎年これで、おもいだし、助かっています。ありがとうございます。
- 矢追家麻呂君 ニコニコ協力
- 森下泰行 君 ニコニコ協力
- 渡辺英孝 君 ニコニコ協力
- 宮西正伸 君 ニコニコ協力です。
- 今崎和民 君 ニコニコ協力
- 倉田智史 君 ニコニコ協力
- 山本尚永 君 ニコニコ協力
- 森山斗福 君 ニコニコ協力
- 辻本和弘 君 ニコニコ協力
- 谷川千代則君 ニコニコ協力
- 植村将史 君 ニコニコ協力

例会変更

4 月

■生駒ロータリークラブ ■

- ・4月25日(水)・・・大和郡山RCとの合同例会の為、時間・場所変更。

時間18:15⇒18:00 場所:ホテル日航奈良(TEL:0742-35-5531)

※尚、ビジター受付は行いません。

5 月

■大和高田ロータリークラブ ■

- ・5月 1日(火)・・・定款第6条第1節(C)により休会。※尚、ビジター受付は行いません。

■桜井ロータリークラブ ■

- ・5月 2日(水)・・・定款第6条第1節(C)により休会。

※尚、ビジター受付は5月2日(水)例会場(桜井市まほろばセンター)にて12:00~12:30まで行います。

次週の例会

平成24年4月15日(日)は家族親睦花見例会です。

平成24年4月17日(火)は休会です。

平成24年4月24日(火)卓話 箸尾 文雄 会員 「ガバナー輩出クラブの心構え」